

# 樋口一葉展

—わが詩は人のいのちとなりぬべき

2021年10月2日[土]—11月28日[日]

[開館時間]9:30~17:00(入館は16:30まで) [休館日]月曜日

[観覧料]一般800円(600円)、65歳以上・20歳未満及び学生400円(300円)、高校生100円(100円)、中学生以下は無料 \* ( )内は20名以上の団体料金

[編集委員]藤沢周 [主催]県立神奈川近代文学館、公益財団法人神奈川文学振興会

[特別協力]公益財団法人日本近代文学館、台東区立一葉記念館、山梨県立文学館

[後援]NHK横浜放送局、FMヨコハマ、神奈川新聞社、TBS

[協賛]岩波書店、京急電鉄、相模鉄道、東急電鉄、横浜高速鉄道、神奈川近代文学館を支援する会

[広報協力]KAAT 神奈川芸術劇場、こまつ座

横浜・山手 港の見える丘公園内

県立 神奈川近代文学館

Kanagawa Museum of Modern Literature

〒231-0862 横浜市中区山手町110 TEL 045-622-6666 <https://www.kanabun.or.jp> [最寄り駅]東急東横線直通・みなとみらい線 元町・中華街駅6番出口から徒歩10分

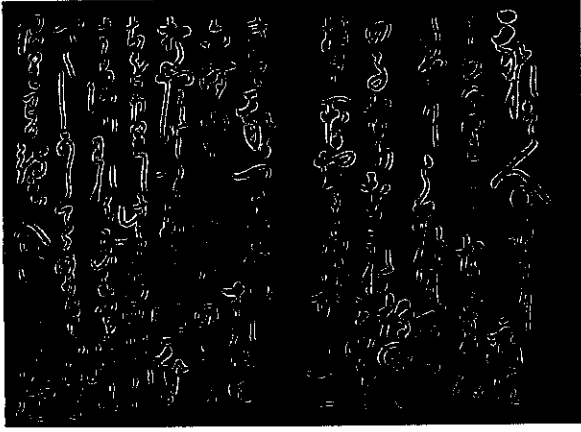
新型コロナウイルスの感染拡大状況により開催日時等を変更する場合があります。本展は観覧予約制をとっています。詳しくはお問い合わせください。

# 樋口一葉展

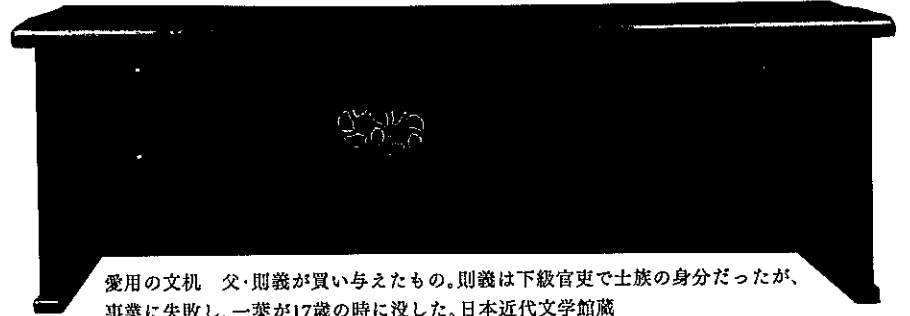
—わが詩は人のいのちとなりぬべき

明治半ば、肺結核のためにわずか24歳6ヵ月の短い生涯を閉じた樋口一葉(1872~1896)。困窮のなかで作品を生み出し、特に1894年(明治27)12月発表の「大つごもり」以降、死の直前までのわずかな間に「たけくらべ」「にぎりえ」「十三夜」などの名作を次々に発表し、文学史上に不朽の名を残しています。

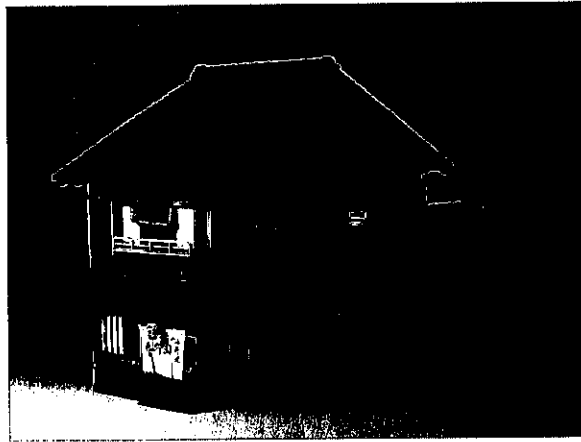
雅俗折衷体で書かれた一葉の作品は、現代人には一見馴染みにくいものかもしれません。しかし、家族制度や女性差別、貧困などのなかで苦闘し続けた一葉の人生、そして作中人物が背負っている闇は、現代社会にも通じる問題を孕んでいます。本展では、一葉の貴重な資料の数々を展示するとともに、時代の空気、作品の背景などをひもとき、その普遍的な魅力を伝えます。



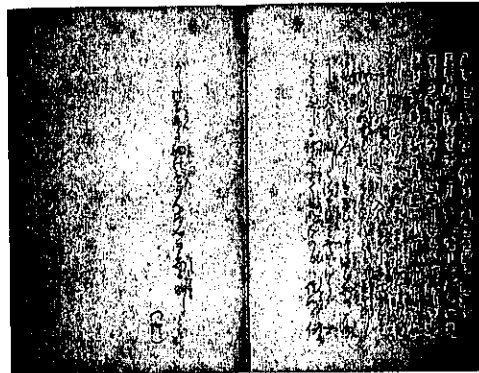
感想断片 自らを「詩のかみの子」と謳い、「このよほろびざる限りわが詩は人のいのちとなりぬべき(なり)」と結ぶ。「詩神」は交流の深かった「文学界」同人たちが用いた語でもあり、執筆に対する一葉の気概がうかがえる。早稲田大学図書館蔵 ※後期展示



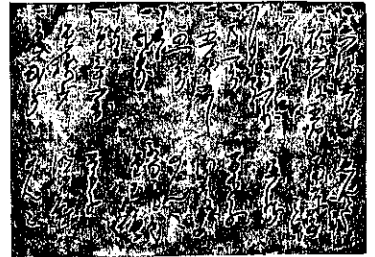
愛用の文机 父・則義が買い与えたもの。則義は下級官吏で士族の身分だったが、事業に失敗し、一葉が17歳の時に没した。日本近代文学館蔵



銘酒屋「菊の井」模型 「にぎりえ」の舞台で、主人公の私娼・お方はこの店の一枚看板。一葉が晩年に暮らした丸山福山町の家の近隣には、このような銘酒屋があった。制作・三浦宏 撮影・石崎幸治 個人蔵



「たけくらべ」最終回原稿 「文学界」1896年1月号に掲載 花魁を姉に持つ美登利と僧侶の息子・信如の仄かな恋を軸に、吉原界限に暮らす少年少女たちを活写した代表作。日本近代文学館寄託 ※表面背景は同資料から。



仕入帳 1893年8月 下谷龍泉寺町で、荒物・駄菓子店を営んだときのもの。この間の生活体験が「たけくらべ」ほかの作品へと結実する。山梨県立文学館蔵

## 本展記念イベント

※詳細はホームページ等でご確認ください。  
①~④=要事前申込。お電話(045-622-6666)またはホームページの申込フォームで、お名前・電話番号・希望日・人数をお知らせください。料金は当日のお支払い、先着順で定員になり次第締め切ります。  
会場:①~④=展示館2階ホール、⑤=展示館1階エントランスホール

①対談「一葉の消息、一葉のやさしさ—その女の声をたずねて」  
10月16日(土)14:00~ 出演:小池昌代(詩人、作家)、藤沢周(作家、本展編集委員)  
料金:一般1,200円(友の会会員1,000円)

②講演会「一葉とわたし」 10月30日(土)14:00~  
講師:伊藤比呂美(詩人) 料金:一般1,200円(友の会会員1,000円)

③朗読会「一葉作品から」 11月6日(土)14:00~  
出演:加賀美幸子(アナウンサー) 料金:一般1,200円(友の会会員1,000円)

④文芸映画を観る会 10月23日(土)、24日(日)各日13:30~  
「にぎりえ」(1953年 新世紀映画・文学座) モノクロ 130分 DVD上映  
監督:今井正 出演:丹阿弥谷津子、久我美子、淡島千景ほか  
料金:一般800円(友の会会員600円)  
※文芸映画を観る会(当日入会可・無料)及び神奈川近代文学館友の会向け会員制行事です。

⑤ギャラリートーク  
会期中の毎週金曜日14:00~ 無料(要展示観覧料)・申込不要

かなぶん連句会「てつぺんの柿の巻」 11月23日(火・祝)13:30~  
選者:小島ゆかり(歌人)、辻原登(作家)、長谷川權(俳人) 参加無料・要事前申込  
会場:展示館2階ホール 後援:月刊望星 ※申込方法はホームページをご覧ください。

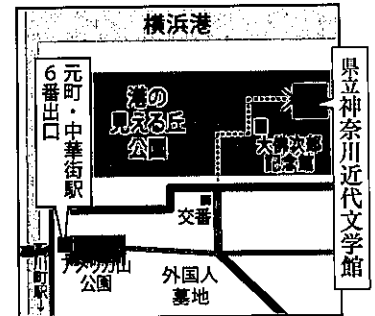


本展は観覧予約制をとっています。ご予約はこちらのQRコードから、お電話(045-622-6666)でも受け付けています。

本展は会期中、展示替えを行います。  
前期展示: 10月2日(土)~31日(日)  
後期展示: 11月2日(火)~28日(日)



次回展示 特別展  
「生誕110年 吉田健一展 文學の楽しみ」  
2022年4月2日(土)~5月22日(日)  
※2021年11月29日(月)~2022年4月1日(金)は、施設改修工事のため臨時休館いたします。



※駐車場がありませんので、公共交通機関等をご利用ください。

〈東急東横線直通・みなとみらい線〉元町・中華街駅下車6番出口(アメリカ山公園口)から徒歩10分  
〈バス〉神奈川中央交通バス⑩系:桜木町駅~保土ヶ谷駅  
・横浜市営バス⑩系:桜木町駅~山手駅  
・観光スポット周遊バス「あかいくつ」  
いずれも「港の見える丘公園前」下車、徒歩3分  
〈JR根岸線〉石川町駅下車元町口(南口)から徒歩20分

## 炎凍る 樋口一葉の恋

### 瀬戸内寂聴

著者は一葉自身と小説中の女主人公の「生」と「性」に着目し、運命に抗う彼女らの苦闘の跡を追う。未完の作品「婁紫」の続編を併載。(解説=田中優子)【岩波現代文庫】定価946円

岩波書店 〒100-8002 東京都千代田区千代田2-5-5  
http://www.iwanami.co.jp

二円の借金を返さねば年越できぬ伯父のために、主家の金を盗むお峰の心の動揺を描く「大つごもり」のほか、「十三夜」「ゆく雲」「うつけみ」「われから」「この子」「わかれ道」を収録。  
【岩波文庫】定価572円 (解説=前田愛)

大つごもり  
十三夜 他五篇  
樋口一葉



(注・解説=田中優子)  
【岩波文庫】定価462円

にぎりえ  
たけくらべ  
樋口一葉  
吉原遊廓という闇の空間とその周辺に生きる人びとに目を向けた一葉の名篇を収める。詳細な注を加えての改版。